

8月30日(日)

防災訓練



市と関係機関が密接に協力し、災害時に適切に対応するため、第29回鶴ヶ島市防災訓練を実施します。災害による被害から命を守るために、訓練を通じて災害時の行動を確認しましょう。

問合先 安心安全推進課防災担当

日時 8月30日(日)8時30分～11時30分(小雨決行)
メイン会場 新町小学校

訓練内容 煙中通過訓練、自衛隊による炊出し訓練、AED応急処置訓練、高倉婦人防火クラブ・鶴ヶ島市消防団による消火訓練や緊急地震速報の訓練放送など。

※備蓄倉庫・備蓄教室が設置されている各小中学校では、市職員、自治会役員などによる避難所開設訓練などを行います。

注意事項 当日8時30分頃より、防災行政無線で訓練用の地震発生放送や避難指示の放送などを流します。実際の災害と間違えないようにしてください。

また、放送が流れると、防災ラジオからもその都度放送が流れます。ご理解、ご協力をお願いします。

電気自動車による給電訓練を行います

災害が発生した際の停電に備えて、西市民センターを除く各市民センターと女性センターに、電気自動車などから電力を供給できる給電設備(EVパワーステーション)を設置しています。

これにより、停電時でも災害対策本部と各避難所の間で情報の伝達が行えるようになります。

また、災害時協力事業者として埼玉日産自動車(株)、(株)日産サテイト埼玉および日産プリンス埼玉販売(株)と協定を結び、事業者所有の電気自動車を優先的に貸与していただくことになっています。

防災訓練では、前記3社協力のものと、電気自動車を使い、給電をする訓練を行います。この

訓練で、職員の給電設備操作の習得を図っていきます。

※市では、平成27年4月1日以降に電気自動車などを購入した方で、施設への給電に協力してください。3万円分の「つるがしま元気クーポン」を交付しています。

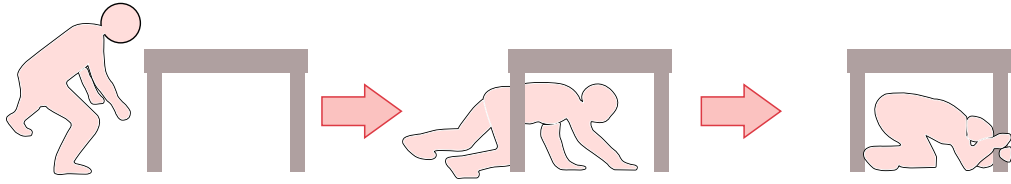
自宅でもシェイクアウト訓練にご参加ください

地震による被害の多くは、揺れによる家具などの転倒や落下物によるものです。自分の身を守るために安全行動をとる訓練(シェイクアウト訓練)を、鶴ヶ島市防災訓練に併せて行いましょう。

日時 8月30日(日)8時30分頃
訓練内容

市内全域に防災行政無線で、地震が発生したことを想定した放送を流します(この放送は、防災ラジオからも流れます)。

地震の揺れから身を守る「3つの安全行動」



①姿勢を低く!

②頭や体を守る!

③揺れが収まるまでじっとする!

放送を聴いたら、ご家庭や外出先など、それぞれの場所で約1分間、「①姿勢を低くし、②頭や体を守り、③揺れが収まるまでじっとする」という「3つ

災害が起きたら

地震のときは

大きな地震が発生した時、一瞬の判断が生死を分けることがあります。パニックを起こさず落ち着いて対応するため、地震発生時の行動を覚えておきましょう。

地震が起きたら何をしますか？

地震発生

- 自分の身を守る
- ドアを開け、逃げ道を確保する

1~2分

- 火元を確認→火が出ていたら初期消火
- 家族の安全を確認
- 靴を履く（ガラスの破片から足を守る）
- 非常持出品を用意する

3分

- 隣近所の安否を確認（声をかけ、助け合う）
- 余震に注意する

5~10分

- ラジオなどで正しい情報を得る
- 家屋倒壊の恐れがあれば避難する
→避難時は、落下物やブロック塀、自動販売機などに注意する
- 家を出る前に、ガスの元栓を締め、電気ブレーカーを落とす

気象災害のときは

台風や大雨などの気象災害は、ある程度予測することが可能です。必要なときは、テレビやラジオ、インターネットなどで最新の情報を収集するようにしましょう。

◆台風のとき

- 鉢植えや物干し竿などは、強風で飛ばされないようなところに移動しましょう。
- 道路冠水や浸水の被害を防ぐため、雨水ますの周りに落ち葉などがたまっていたら、清掃にご協力をお願いします。

◆大雨のとき

- 家具や貴重品などを2階などの高い場所に移動させましょう。
- 河川や下水路などには、近づかないようにしましょう。

日ごろからの災害対策

家の中の点検を!

災害による被害を軽減するために、日ごろから対策を講ずることは、有効です。転倒した家具が体の上に倒れてきたり、通路をふさいだりすると、避難が遅れる原因になります。通路には家具を置かないようにし、大きな家具などは固定するようにしましょう。

ローリング備蓄を!

食料は発災後3日間は自活できるように備蓄をしましょう。日ごろからできる方法として、「ローリング備蓄」と呼ばれるものがあります。食料や飲料などの非常食を多めに備蓄し、普段から非常食を食べつつ、なく



なったら、新しいものを買いつけていくというものです。**避難ルートの確認を!**

災害時の避難経路、連絡手段も、あらかじめ家族や友人などと確認しておきましょう。小学校、市民センター、公園など最寄の避難場所への安全な道順を把握しておきましょう。災害時の情報伝達手段については、電話やメールなど、複数確保しておくことが有効です。